

こんにちわ

日本共産党

横浜市議団です

日本共産党
横浜市議員団発行
週刊ニュース

2008. 8. 13

横浜市中区港町1-1(市庁舎内)

電話 671-3032 FAX 641-7100

E-mail: info@jcp-yokohama.com

http://www.jcp-yokohama.com/

米原子力潜水艦
ヒューストン

2年以上も放射能もれ

ひとつではない！ 横須賀に原子力空母配置間近

米海軍原子力潜水艦ヒューストンから放射能を帯びた冷却水が、2006年6月から今年7月までの2年以上にわたって、漏れていたことがわかりました。

横須賀にも寄港

ヒューストンは同期間中、日本に11回寄港しています。米政府の通報では、2006年6月以降、米海軍佐世保基地(長崎県)と同ホワイトビーチ(沖縄県)に各5回、同横須賀基地にも1回、寄港しています。その際、ヒューストンから放射性物質が漏れていたと推定しています。

米国側は今回の放射能漏れについて、「日本へのすべての寄港の間に漏れた放射能の量をすべてあわせたとしても、一般家庭用煙検知器に含まれる放射性物質の量よりも少ない」などと正当化し、反省の弁も管理体制の見直しについての言及もありません。この程度の放射能漏れは許容範囲であり、今後も原子力艦船を運用する限り不可避だと宣言しているようなものです。

日本には毎年、20隻前後の米原子力艦船が数十回にわたって寄港しています。ヒューストンに限らず、放射能漏れが常態化している可能性もあります。



米海軍横須賀基地に配備予定の原子力空母ジョージ・ワシントン (フリー百科事典『ウィキペディア』より)

原子力空母の横須賀配置は危険!!

横須賀基地には、今年9月下旬に原子力空母ジョージ・ワシントンの配備が予定されています。横須賀基地で放射能事故が起これば、隣接する横浜市はもちろん、人口が集中する首都圏一帯に被害が及ぶ可能性は極めて大きいといえます。

原子力空母の配置は、放射能事故の危険だけでなく、「殴り込み」機能の強化、基地の恒久化、米軍犯罪の拡大と4つの危険をはらんでいます。

動く原子炉「原子力空母はNO」の声を、いまなおいっそう大きくあげましょう！

米軍・上瀬谷通信施設が無人に 今度こそ早期に返還を！

8月5日号の米軍機関紙によると、米海軍・上瀬谷通信施設内に居住する最後の住民が間もなく厚木基地に移転し、ジム・レストラン等も閉鎖されることとなります。米海軍は、「基地が閉鎖されるわけではない」と強調し、今後はトレーニングや倉庫として使用する予定です。

横浜市内には、上瀬谷を含めて7か所の米軍基地があります。横浜市は早期返還を求めるといいながら、池子の米軍住宅建設を容認しています。

無人になった上瀬谷施設と合わせて他の米軍基地も、いまこそ返還のチャンスです。